



項目	角館病院	田沢湖病院	合計
医業収益	3,915,939	903,607	4,819,546
医業費用	4,169,755	1,058,444	5,228,199
医業利益	-253,816	-154,836	-408,653
経常利益	-9,067	-87,956	-97,022

項目	温泉事業会計	水道事業会計
営業収益	42,814	330,016
営業費用	32,047	284,254
営業利益	10,767	45,762
経常利益	10,826	12,533

平成22年度

企業会計決算審査



9月1日、平成22年度の企業会計決算審査のため特別委員会が設置された。9月15日、16日の2日間、慎重に審査が行われ、病院事業会計、温泉事業会計、水道事業会計の各決算について認定された。

平成22年度 病院事業会計決算認定について

質問 両病院ともに、累積赤字に陥っている。今後の自治体病院としての方向性について伺う。

答弁 仙北市の人口規模からすると、病院を2つ経営すること自体が厳しい。医師確保という課題もあり、現段階では、田沢湖病院の救急再開も困難な状況である。病院経営の現状は、人口減少、医師不足を始め、課題が山積している。しかし、地域の医療を守るという観点から、当面は2つの病院を維持しながらも、将来は両病院の機能のすみ分けも検討せざるを得ない。

質問 民間病院の一般的な人件費率は50%程度と言われているが、角館、田沢湖両病院の人件費率はそれと比較して相当高い。どうとらえるか。

答弁 民間病院の一般的な人件費率は50%程度と言われているが、角館、田沢湖両病院の人件費率はそれと比較して相当高い。どうとらえるか。

答弁 企業経営からすれば、ボーナスや給与等の人件費も節減の対象となるが、現時点ではスタッフのモチベーションも考慮し、事務職の削減や看護師の再雇用により、その抑制に努めている。

質問 病院事業会計において、繰越調定の乖離問題は無いものと理解してよいか。

答弁 繰越調定額の乖離はない。

〈委員会の意見〉

- 1 自治体病院は、市民の生命を守るという崇高な責務を負っていることから、両病院を病院として存続できるよう努めること。
- 2 医師の確保対策に最大限の努力をすること。
- 3 患者へのサービス向上並びに患者や住民の意向の把握に努めること。

平成22年度 温泉事業会計決算認定について

質問 今後の源泉確保と給湯施設老朽化の対策として具体的な方針や計画は策定しているのか。

答弁 カラ吹2号源泉の修復と新規の温泉源の掘削を予定している。現在は、関係機関の同意を得るため交渉中である。総額で約4億円の事業費を見込んでおり、同意が得られれば、次年度からでも予算措置したいと考えている。

質問 震災後において、全国各地の温泉で湯量に変化が生じている。本市の現状はどうか。

答弁 一時的な温度の上昇が見られたものの、湯量の変化は確認されていない。

平成22年度 水道事業会計決算認定について

質問 現段階での経営状態を踏まえ、将来の未普及地解消対策や水道事業の在り方について伺う。

答弁 財政的には、設備投資等による若干の厳しさはあるものの、現時点では健全な経営と認識している。

今後、未普及地に対し事業拡張を続けた場合、深刻な財源不足も懸念される。事業拡張にあたっては、加入率に基づく採算性も判断基準の一つではあるが、民家の少ない地域でも水道の需要があれば、地域の実施を判断せざるを得ない。

質問 水道事業会計において、繰越調定の乖離問題は無いものと理解してよいか。

答弁 調査確認したところ、繰越調定額の乖離はない。
(高橋 記)

企業会計決算審査特別委員会

委員長	安藤 武	阿部則比古
副委員長	高橋 豪	小田嶋 忠
委員	門脇 民夫	田口 喜義
	黒沢 龍己	稲田 修
	青柳宗 五郎	
	高久 昭二	